

三方原にある「未来くる園」を残してください

はじめまして。

私たちはキセキの未来くる園(みらくるえん)に集う会と申します。

小さな植物園を守りながら、集まった方々にとって思い出に残るような場を築いてきました。

この手紙を手にとっていただき私たちの想いを大切な貴方へお伝えできて嬉しく思います。

皆様は心が疲れた時や何か行き詰った時、しがらみから自由になりたい時、花や草、自然と触れ合うことでスッと心が軽くなる経験や思い出はおありでしょうか？

この未来くる園は多くの【日本の絶滅危惧種(3種)】や【貴重な日本の野草植物(20種以上)】が集まっている場所で、昔では当たり前のように野原で見られたのに、今では珍しくなってしまった日本固有の植物が数多く自生しています。また湿地帯と乾燥地帯の相反する場所で育つ植物が混在しています。

そして、日本のブルーベリーであるナガボナツハゼ、ナツハゼ、しゃしゃんぼという植物がこの場所には揃っています。

初めてこの話を聞いた時、日本のブルーベリーというものがあるということが驚きでした。

そして自らこの場所を選んでいることに更に驚きました。

先人の方々が陽当たりの良いようになどの管理はしてきてくれましたが、多くの植物が長い年月をかけて自らこの未来くる園に集い生命を繋げてここまで生きてきました。

この未来くる園の様子はまるで昔の日本の原風景であり、**浜松市・三方原地区・三幸町の宝**です。

そんな場所が浜松にあることがまさに奇跡ではないでしょうか？

最近よくテレビでも聞くようになった【絶滅危惧種】がこんな身近にあるなんて想像もしていませんでした。それもそのはずです。

先人の方々は未来くる園にある貴重な植物たちのことを想い、ひっそりと保護してきたのです。植物たちを観察しながら手で管理し、ここの命を繋げてくれました。

また三方原防風林組合の方も理解してくださり一緒に守ってきてくれたおかげで今があります。

なにもない場所を一から開拓し、松を植え、人が住めるようにし、自然が溢れる土地にするまでどれだけ時間をかけ、大変だったのかは今の私たちには想像もできません。

地域の方の昔の話を聞くと三方原で松茸が取れ、今では貴重になってしまったハルリンドウなどが一面に咲いていたと懐かしみながら話してくださいました。

そんな素晴らしい土地も時代とともに減り、今では【未来くる園】だけとなりました。

人が手を加えたら野生の土地とはいえないかもしれません。ですが手を加え愛情を注いだからナガボナツハゼやナツハゼなどがここまでの大木になったのです。

いろんな意味でとても素晴らしい場所だということが貴方へ伝えられれば嬉しいです。

実はそんな場所が今年で無くなってしまふかもしれません。他へ移植する計画はありますがそこで生きていける保証はありませんし全ての植物は移植できません。なにがいいかという植物たちの寿命ではなく人間の都合でこの素晴らしい植物たちの命を終わらせてしまっているのでしょうか。

この愛で溢れたこの【未来くる園】をどうかこの地域の方の憩いの場、癒しの場、学びの場として残していただけないでしょうか。ご協力いただきたいです。貴重なお時間を使い読んでいただきありがとうございます。